



# 三渚保育園 園だより

November 2023



## クラス目標 ～1か月大切にしたいこと～

- たんぽぽ組**
  - ・欲求を受け止めてもらい、安心感をもって過ごす。
  - ・心地よい気候の中、全身を使ってのびのびと遊ぶ。
- もも組**
  - ・落ち葉やどんぐりなどの自然物に親しみながら、戸外でのびのびと体を動かして遊ぶ。
  - ・身の回りのことへの意欲を持ち、少し難しいことでも自分でやってみようとする。
- ばら組**
  - ・秋の自然（虫や落ち葉・木の実）に触れ、季節の変化に関心を持ちながら戸外活動を楽しむ。
  - ・保育者や友だちと一緒に言葉のやりとりや表現することを楽しむ。
- うめ組**
  - ・散歩先で、秋ならではの自然物を見つけ、遊びの中に取り入れたり発展させながら季節感を味わう。
  - ・手洗いうがいを自分で行き、風邪予防を行う。
- すみれ組**
  - ・食物の収穫やクッキングを通して旬の食材に触れる。
  - ・他児と協力して物事をやり遂げた達成感を味わう。
- ゆり組**
  - ・季節の変化を肌で感じ、気温や気候によって着衣を調整する等、自分自身の体調に意識を向け健康的な生活を送る。
  - ・身近な文字や数字に興味を持ち、遊びに取り入れて楽しむ。



## 11月行事予定

- 1日（水）内科検診
- 6日（月）おべんとうの日
- 7日（火）歯科検診
- 8日（水）内科検診
- 15日（水）消火避難訓練
- 22日（水）おやこバス遠足
- 27日（月）身体測定（～30日）
- 30日（木）お誕生会

### 火災予防運動

火災予防の意識の強化をするため、消防署とのコラボで、すみれ・ゆり組は法被を着て登降園していただきます。保育園より貸出を致しますので期間中管理をお願いします。

11月9～15日

楽しい余韻が残ったままの保育園。皆様のエンジョイする気持ちと、優しいお手伝いや声援のお陰で、心が弾む運動会を過ごすことが出来ました。行事が終わり、気持ちが切り替わるのは大人。子ども達は楽しい思い出は何度も繰り返したい！だから、今週も「運動会の歌」が聞こえるし、「リレーしたいって！」とスタッフが急いでバトンを持ち出す姿もありました。子ども達は運動会を経験して、もっと「やってみたい！」の意欲が育ったのかもしれない。

さて、運動会のエピソードを一つ。当日、テントにも貼っていたのでご覧頂いた方も多いかと思いますが、改めて。4歳児すみれ組のことです。ある時、体操の先生が来てレッスンを受けている最中に、頑張ったけど上手くいかなかった子を、周りの子ども達がクスッと笑った瞬間がありました。このことをきっかけに、担任4名は子ども達と対話をしました。

「どんな気持ちになる？」 「嫌な気持ち・・・」

そこで、自分だったら「体操を頑張っている時にどうして欲しいか」を皆で出し合う事になりました。大人達は「大声で応援して欲しい」の1択だと信じ込んでいました。

しかし、中には「心の中で黙って応援して欲しい」と希望する子も、「静かにしてほしい。応援もしないで。」という子もいることが分かりました。そして、「応援しないで」と言った子の心理には「失敗」を恥ずかしいと感じている事が分かりました。だから「失敗するかもしれないし、応援しないで欲しい」と。

大人達はハッとしました。そうだ、そうだ、それぞれの心の中は違うよね。私達は普段「失敗しても大丈夫だよ！」と口では言うけれど、子ども達の気持ちは聞いていなかったかもしれない。

そこから、子ども達と「今日はどうして欲しい！」と自分で応援の方法を選択して周りに知らせる方法をとりました。

そんな日々の中で、「失敗したら恥ずかしい」から「静かにして」を選んでいたり、「大声で応援して欲しい」を自ら選びました。その心境の変化に興味をわき、担任が尋ねると「うん。もう出来そうな気がする！だから、大きな声で応援して大丈夫！」と。担任はこの言葉を聞いて、心から嬉しく感じました。心が成長している！と実感したためです。何かが上手にできるようになるだけじゃない、そのプロセスで子どもなりに葛藤したり打ち勝ったりしたんだな、と。

すみれ組の子達は、「お互いを大切にして応援する」ことや「心のたくましさ」を教えてくれ、私達も一緒に成長させてもらいました。

國友 裕子

## 「遊びに夢中になること」

0歳児たんぽぽ組 中路 紗梨奈

わたしは、0歳児たんぽぽ組の担任です。最近、乳児の保育について学ぶ研修の機会に恵まれていて、“遊びと環境”について考えることができました。

そこで私自身、母であり、保育士として仕事をする中で学んだ事を共有させていただきます。

まず、保育において“環境”がとても大切であるという事。保育園では、「人・物・場」が環境です。私自身も子どもにとって、環境の一つになります。そんな私が子どもをどうとらえるか、どう関わるかで目の前の子の思考や心の動き、成長が変わってくると思うと、やはり私達ももっと子どもを深く理解し続けることが大切だと感じます。

さて、“発達”というのは「出来た・出来ない」の結果ではなく「出来かたの広がり」、つまり“過程”なのだという事を学びました。なりたい自分になりたいけど、上手い出来ない、出来ないという葛藤をして、それを自らのチカラで乗り越えようとする姿が発達なので、“いやいや”の姿も「発達」の姿なのだ。そう思うと、子どもと接する際に心持ちが違ふと思えます。

また、遊びに夢中に取り組む姿を見て、「子どもが夢中になっている」と捉えがちですが、実は「傍観遊び」という遊び方がある事を知りました。遊びに加わらず、他児の活動を眺めたり、口出しをするだけの遊びのことです。今、0歳児クラスの子の中に、遊びに加わらず、ただじーっと見ているだけの子もいます。実は「安心できる環境を作れていないかな？」と考えたりしましたが、傍観遊びというステップの途中で、これはこれで遊びに夢中になっているという事が分かり安心しました。子ども自体が動いていないので、手ごたえは感じにくいけれど、ただ見ているだけでも気持ちが動いていれば、確かにそれは立派な遊びだし、そこから学びがあるのだと感じました。「動いていないから、遊べていない」と判断するのではなく、その子なりにしっかり遊んでいるんだと思えると、子どもの「夢中」を「ほら、こっち来て遊ぼうよ！」と邪魔することなく、見守りながら援助できるなと感じています。

子ども達の成長する姿を大人の固定概念だけで判断し、子どもを誘導したり遊びに参加させたりせず、それぞれのペースや段階を尊重しながら関わっていきたく感じています。そして、夢中になる環境を提供していきたいです。



## まだまだ学びが続きます。

スウェーデンから、イングリッドさんという方が兵庫教育大学に来日されます。

スウェーデンは福祉国家。そして、子どもを囲む環境も世界的に評価されています。

例えば、育休制度を例にとると、母親だけでなく父親も必ず一定時間の育休を取得しなければならぬと国が定めています。

そして、スウェーデンという国が置かれる状況もあり移民や難民も多く、保育の中で社会を意識した指針が示されています。

子ども達は一人前になって、国を支える人間になる。その大前提で、スウェーデンはどういう国でありたいか、という部分が国の保育指針に色濃く表れています。この国は近隣を様々な主義の国に囲まれており、影響を受けやすい環境であったという歴史がありました。

民主主義で平和な国は、自分たちで作り、守らなければならぬと考えています。

選挙の投票率を見ても、国民が自分達の住みやすい環境を守る意識の高さが表れています。

そんな国ですから、子ども観も学ぶことがとても多い。就学前のカリキュラムに「子どもの社会的発達は、就学前学校（保育園）で子ども自身が自分の行動と環境に責任をとる能力を身につける事から始まる」と記載されています。

私達は、イングリッドさんから、どんな価値観を学べるのか。保育園からは5人のスタッフが参加してまいります。社会も、環境も、歴史も違う国と人から、この三瀧という土地の保育園が見据えなければならぬことはどんなことなのか。

私達も目先の子ども達の成長を求めたりすることはあまり重要視していません。社会の中で自分で立ち、自分の倫理観で軸をもって正しく意見が言え、相手のことを受け入れながら生きていける人格を育てたいと考えています。さあ、とても楽しみ。

これ以外にも、スタッフは多くの学びの場に積極的に参加しています。カタチとしてあわれめないけれど、こんな事を重ねながら少しずつ変化していく私達を是非温かく見守ってください。

そんなことを考えていると、子ども達が今日もにぎやかに遊んで帰ってきました。散歩先で山ほど松ぼっくりを拾って帰ってきたり、稲刈後の田んぼを走り回って、藁まで持って帰ってきたり。子どもにとっては自然界は偉大なる先生。私達が何かを教えるよりも、はるかに有意義なことを教えてくれます。そして、学んだ事を真っ先に伝えたい相手は、おうちのひと。収穫してきた草花は、たとえしおれていたとしても、子どもの伝えたい想いが詰まったもの。受け取った時には、きっとしおれていない時のイキイキとした話が聞けると思っています。子どもって、本当に日常に小さな喜びや感動を見つける天才的な才能を持っているな、と驚かされるばかりですね。